

感染症に気をつけよう！



平成 24 年 10 月 2 日

横浜市内の感染症流行状況

疾患名	流行状況		コメント
RSウイルス感染症	◎	▲	今年は、通常より早い 8 月下旬から報告が増え続けており、例年を大きく上回っています。今後の流行に注意が必要です。下段の「今、気をつけたい感染症」で解説しています。
腸管出血性大腸菌感染症	●	▲	7 月以降、報告が増加しています。家族内での発症もみられました。「 O157 に注意しましょう 」を読んで防ぎましょう。
風しん	●	→	9 月に入っても成人男性を中心に流行しています。流行をおさえ 先天性風しん症候群 を防ぐために、成人も 予防接種 を受けましょう。男性も接種することが大事です。詳しくは 感染症臨時情報 をご覧ください。
マイコプラズマ肺炎	●	→	全国的に流行しています。市内でもやや報告が多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。

◎流行 ●やや流行 ▲散発 増加 ▲ やや増加 ▲ 横ばい → 減少 ▼

今、気をつけたい感染症

◆ RS ウイルス感染症

◇ 昔から、いわゆる冬場の風邪のひとつとして知られていますが、乳幼児では重症化することが多く、乳幼児における肺炎の約 50%、細気管支炎の 50～90%の原因を RS ウイルス感染症が占めると報告されており、注意が必要です。病気がある子供や高齢者では、さらに重い症状を引き起こすことが多く、重要な感染症です。

◇ 例年、冬期を中心に流行しますが、今年は横浜市内だけではなく、全国的にもすでに流行が始まっており、早めの対策が必要です。

◇ 他の多くの風邪と同様に、患者の咳で生じた飛沫(しぶき)を吸い込んだり、患者の呼吸器からの分泌物に汚染された手指や物品を介した接触で感染します。そのため、自分が感染しないためにも、他人を感染させないためにも、**手洗いやうがい**が重要です。「[正しい手洗い](#)」を参考にしてください。



この資料は、9 月開催の横浜市感染症発生動向調査委員会の市民向け報告です。詳しくは[委員会報告](#)をご覧ください。市内の感染症に関する詳しい情報は、[感染症発生状況](#)をご参照ください。啓発用に[パンフレット](#)も作成しています。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課（横浜市感染症情報センター）

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

